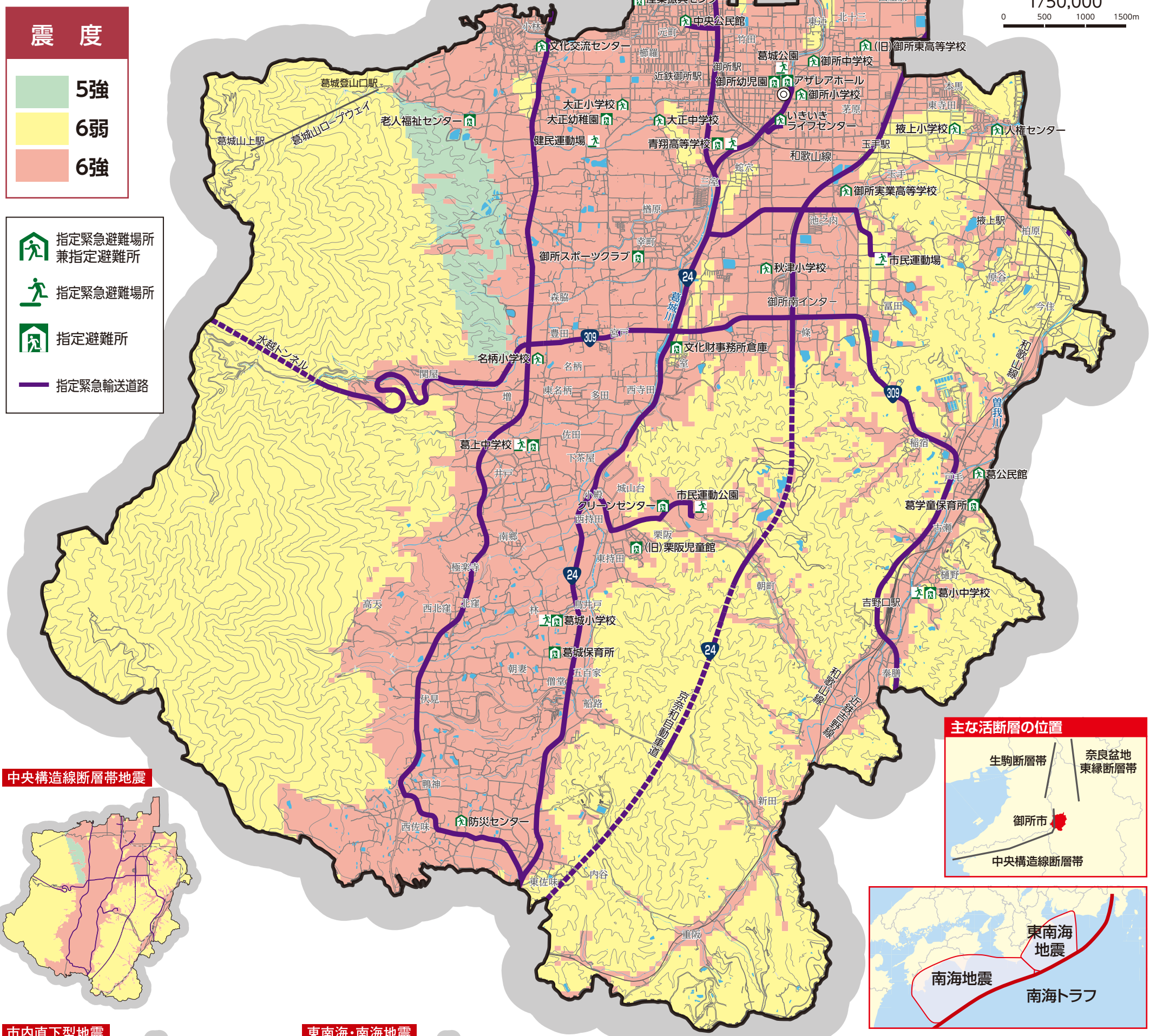
揺れやすさマップ

揺れやすさマップとは、地震発生時に想定される震度を色別に表示し、指定避難所などの位置を表示したマップです。

御所市への影響が大きい「中央構造線断層帯地震」「東南海・南海地震」「市内直下型地震」を想定し、市域の地形や地盤条件、想定地震の断層からの距離のデータを用いて、50m四方のエリアごとに想定される震度を推計しました。それらを重ね合わせて、各地域の震度の最大をとった揺れやすさマップを作成しました。

震度とマグニチュード

地震のエネルギーの大きさをマグニチュード、地面が揺れる大きさを震度と呼びます。
マグニチュードが大きい地震でも、震源が遠い場合や深い場合は、震度が小さくなります。
マグニチュードが1増えると、地震のエネルギーは約32倍にもなります。



周辺の主な地震と活断層帯

	周辺の地震	マグニチュード	今後30年以内の地震発生確率
内陸の活断層で発生	中央構造線断層帯地震	6.8～7.5程度	ほぼ0～1%
	奈良盆地東縁断層帯地震	7.4程度	ほぼ0～5%
	生駒断層帯地震	7.0～7.5程度	ほぼ0～0.2%
海溝型	南海トラフ 東南海・南海地震（同時発生）	8～9クラス	70%～80%

出典:地震調査研究所推進本部の公表値（算定基準日2020年1月1日）